

SSRI

Give me a break !

ちよつと一言

韓国へ輸出したフッ化水素の行方

藤岡智和

日本政府は 7 月に韓国に対し半導体製造に必要な 3 品目について輸出管理を強化したが、それから 3 ヶ月経った時点でそのうちの 2 品目はむしろ日本からの輸出量は増えているという。

ところがその中でフッ化水素だけはそれまで月間 3,000t であった韓国への輸出量がほぼ 0 になっているという。

その理由として考えられるのは、輸出が減っていない 2 品目は半導体製造の需要が大きいのにに対し、フッ化水素は他の用途も大きいせいと思う。

他の用途で注目するのはウラン濃縮である。

ウラン濃縮は原子量 238 の天然ウランの中に僅か 0.7%含まれているウラン 235 を、その僅かな重さの違い(238 : 235)を頼りにして濃縮するが、それにはウランを気体である六フッ化ウランにする必要があり、この六フッ化ウラン製造の過程でフッ化水素が必要になる。しかも 0.7%しか含まれていないウラン 235 を分離するためには極めて純度の高いフッ化水素が必要になる。

フッ化水素の輸出がほぼ出来なくなっているのは韓国側から用途を明確化する書類が提出されないためと聞くが、韓国に輸出した高純度フッ化水素のうち相当量がウラン濃縮のため北朝鮮へ渡っているとすれば、当該書類を出せないと見るのは勘ぐりすぎであろうか。

(2019 年 11 月 28 日)